

## 開発途上国協力における設計・建設・運営を一体化した実践的建築教育プログラム—コンゴ民主共和国アカデックス小学校プロジェクト

正会員 松原 弘典 君  
長谷部 葉子 殿  
正会員 鈴木 啓君

本業績は、毎年慶應義塾大学の学生グループ 15 名がアフリカ中西部のコンゴ民主共和国キンシャサ市で「アカデックス小学校」を設計・建設・運営している国際的な建築教育プログラムである。内戦が終結したコンゴでは子どもたちの学習環境の整備が喫緊の課題となっており、日本的な教育システムをもつ学校をつくらうというサイモン・ベデロ氏の提案を受けて、本実践的建築教育プログラムが始められた。受賞者らの指導の下に、日本からの学生と地元学生・住民が協働して、地元の子どもたちが通う小学校を現地の建材でつくっている。計画・デザインから建設・運営までの一貫したプロセスで、毎年延べ床面積 90 m<sup>2</sup>の教室棟が建設されており、本年までにデザインの異なる 3 校舎が完成し、2015 年の完成（6 棟 600 m<sup>2</sup>）を予定している。参加する学生は、日本でモックアップの検討を含めて校舎の計画・デザインを行い、2 週間のコンゴ滞在中に校舎の建設と、完成後に教育ワークショップを行う。この活動に参加した日本からの学生は 4 年間で延べ 50 名となり、コンゴ側から毎年参加する学生 15 名を合わせると、延べ 100 名を超える協働プロジェクトとなっている。

この活動は以下の教育的な特徴を持っている。①学生が教員の指導を受けながら日本で計画・デザインを行い、現地でコンゴ学生と協働で校舎を建設することに加えて、竣工した校舎で教育ワークショップを行うという設計・建設・運営の一貫したプロセスを体験していること。②意匠設計・建築構造・教育の教員が参加する学際的なプロジェクトチームがつくられて、学生が建築の幅広い分野とともに、教育の領域にも及ぶ多様な学習活動を行っていること。③コンゴの地場の材料を用いて、その持続性に配慮して校舎を実践的に建設していること。④学生がコンゴの民家にホームステイして日本とコンゴの若者が直接交流することで、コンゴ社会への日本のイメージを伝達する場、コンゴ社会を深く理解する場となっていること。

本業績は教育的に大きな成果をあげ、以上のように参加する学生にとって貴重な経験の場となっているとともに、日本によるアフリカをはじめとした途上国支援の新しいかたちとしても育っており、秀逸な建築教育プログラムであると高く評価した。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。